



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会 2013年（平成25年）2月15日号 No. 1586

目次

| | |
|---|---|
| ■ 2012年のロシア経済と鉱工業生産 —3.4%成長するも景気減速鮮明に— | 1 |
| ■ トピックス | 6 |
| トヨタ、カザフスタンでのCKD生産で合意／6 | |
| 釣り具のフジワラがロシア向け輸出／6 | |
| ■ エトセラ | 6 |
| 「ロシア医薬産業視察団」 団員募集のご案内／6 | |

2012年のロシア経済と鉱工業生産 —3.4%成長するも景気減速鮮明に—

はじめに

ロシア連邦国家統計局より、2012年のロシアの主要経済指標が発表されたので、図表にまとめてお届けする。鉱工業生産については、特に詳しく紹介する。

主要経済指標は、図表1のとおりである。1月31日に統計局が発表した速報値によれば、2012年のロシアの国内総生産（GDP）は62兆3,569億ルーブルだった。GDPは前年比で実質3.4%成長したものの、図表2からも明らかとおおり、時とともに景気の減速が鮮明になっている。所得の伸びもあって家計の消費支出は堅調に推移したものの、輸出および政府支出の伸びが低調だった。GDPを産業部門別に見ると、製造業が3.2%増であるのに対し、鉱業が0.9%増にとどまった。その傾向は、図表4の鉱工業部門別生産指数からも確認できる。

図表5に見るとおり、2012年のロシアの原油の生産量は5億1,700万t（前年比0.9%増）、天然ガスは6,530億m³（前年比2.7%減）であった。表にはないが、既存の主要産地の減産が目立ち、ハンティ・マンシ自治管区の原油生産が2億5,800万t（前年比1.6%減）、ヤマロ・ネネツ自治管区の天然ガス生産が5,350億m³（前年比4.0%減）であった。比較的新しい産地ではあるが、サハリン州の原油も1,410万t（前年比7.6%減）と減産した。これに対し、クラスノヤルスク地方、イルクーツク州、サハ共和国といった新規開発地域では、原油生産は伸びている。図表6は、そうした地域別の明暗をくっきりと反映している。図表6では、新興製造業地域の躍進も目立ち、なかでも経済特区で横浜ゴムの工場が稼働したりペツク州の数字が特筆される。また、APEC効果か、極東各地域も総じて高い伸びであったが、サハリンの原油が減産した分、極東全体では2.8%増に留まった。